

中等教育研究開発室年報 第32号 (2019年3月31日発行) 別冊電子版
2018年度 授業実践事例

英語科 高等学校第Ⅲ学年

協働による読み手を意識した英作文の指導

授業者 富野 雅嗣

(教育研究大会 公開授業)

広島大学附属中・高等学校

高等学校 外国語科(英語) 学習指導案

指導者 富野 雅嗣

- 日時** 平成30年10月13日(土) 第2限 10:35~11:25
- 場所** 第1研修室
- 学年・組** 高等学校Ⅲ年2組 41人 (男子19人 女子22人)
- 単元** Essay Writing エッセイライティングをしよう
Lesson 17 Should We Abolish the Death Penalty?
MAINSTREAM English Expression II (増進堂)
- 目標**
1. 協働して積極的にメールを書くことに取り組む。(学びに向かう力, 人間性等)
 2. 目的・場面・読み手を意識したメールを書く。(思考力, 判断力, 表現力等)

指導計画 (全6時間)

- | | | |
|-----|--|--------------|
| 第一次 | 教科書本文の内容・言語材料の理解 | 2時間 |
| 第二次 | 説得力のあるエッセイの書き方の理解 | 2時間 |
| 第三次 | 互いのエッセイを評価しあい, より説得力のあるエッセイを書く練習
協働して読み手を意識したメールを書く練習 | 2時間 (本時 6/6) |

授業について

ウォームアップの活動では, ペアでそれぞれが情報を入手し, それを伝え合い, 主体的に1文書き足すことにより, 生徒それぞれが4技能を用いた活動ができる。また, 書き足す1文は読み手を指定することにより, 読み手の存在を意識して書き, 読み手の違いによって書くべき内容が異なりうることを生徒に気づかせる。

また, 本時の主たる活動としては, 協働して個人の意見を読み手が指定されたメールへ書きかえさせる。さらに, 別のペアが作成したメールに対して, 想定された読み手はどのような反応をするか考えたうえでコメントを書き, それらを共有させる。

最後に, 署名活動を通して署名が集まればどのようなことができるかを投げかけ, 考えさせる。

題目 協働による読み手を意識した英作文の指導

本時の目標

1. 協働して積極的にメールを書くことに取り組む。(学びに向かう力, 人間性等)
2. 目的・場面・読み手を意識したメールを書く。(思考力, 判断力, 表現力等)

本時の評価規準 (観点/方法)

1. 協働して積極的にメールを書いている。(学びに向かう力, 人間性等/活動の観察)
2. 目的・場面・読み手を意識したメールを書くことができる。
(思考力, 判断力, 表現力等/ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p>(前時まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エッセイライティング (個人) ・相互評価 (ペア) ・ペアで読み手毎にメールを作成 (ペアワーク) 	<ul style="list-style-type: none"> ・死刑制度に対する 150 語程度のエッセイを書く。 ・既習の評価規準を用いて、相互評価を行う。 ・署名活動の許可を得るメール(校長宛て、保護者宛て)、署名活動の趣意書(一般向け、生徒向け)を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・賛成・反対は個人で決定する。 ・死刑制度の賛成派・反対派に分かれてペアを作る。
<p>(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ (ペアワーク →4 人グループ) ・グループ活動 (4 人グループ) ・メールとコメントの共有 (全体) ・さらなる問いの問いかけ (全体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで異なる情報を持ち寄り、2 つのタスクに答える。 ・条件に応じた英文を書き足す。 ・2 つのペアを足して、4 人グループを作り、グループで英文を完成させる。 ・2 つのペアを足して、4 人グループを作る。 ・別のペアのメールに対してのコメントを書く。 ・コメントを読み、必要に応じてメールを修正する。 ・発表されたメールに対して、メモとコメントを記入する。 ・署名が集まったらどんなことができるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イーゼル4台使用 ・グループで作成した英文の提示はするが、内容・文法等のコメントは極力しない。 ・もし想定されている読み手であればどのような反応を示すか考えるように促す。(読み手との共通認識が作れているか考えさせる。) ・いくつかのグループにメールを発表させる。 ・生徒に自由に発想させる。 ・次回に発表してもらおうと予告する。
備考		

Walking Dictation (1)

- Student A (sitting in odd lines) goes to the front of the classroom.
- Student B (sitting in even lines) goes to the back.
- Each student memorizes a sentence and after going back to their seat, they in turn tell the sentence orally.

Walking Dictation (2)

- You are not allowed to use your dictionary or to take memos.
- When one student tells the sentence, the other student write the sentence down on a given sheet.
- When you get two sentences, think of the answers to the two tasks.

Task 1

Guess the missing word.

Task 2-1

Add a sentence, following the given two sentences.

You are required to add a sentence based on some conditions.

Task 2-2

The conditions (targets)
will be shown to you after
Task 1.

[Adj.] stands for adjective.

Student A

2018年8月19日(日)

読売新聞

えいご工房の1文

(1語空所・形容詞)

Student B

2018年8月19日(日)

読売新聞

えいご工房の1文

(空所なし)

Task 1: Answer

unmanned
driverless
unattended
crewless

The conditions / Targets

- 1 To the passengers of Yamanote Line**
- 2 To the executives of JR East**
- 3 To the children who want to be a train driver in the future**

Group work

- Make a group of four, and elaborate a sentence.
- Write the sentence on the sheet of paper so that we can share your ideas.

Possible answers

(1: passengers of Yamanote Line)

- It is safe, so you don't have to worry about accidents.
- Don't be afraid, it's not dangerous.
- Do you trust computers? If you have an accident on the trains, do you think that computers have ability to take responsibility?

Possible answers
(2: executives of JR East)

- Take care of safety.
- It is an innovative plan.
- I love human drivers.
- You can reduce labor cost.
- Please don't raise fare.

Possible answers
(3: children who want to be a train driver)

- Never give up your dream.
- It is possible that train drivers will disappear in the future.
- It is difficult for you to fulfill your dream in Tokyo, but you can do it in the country.
- Not JR, but VR.

worksheet

Name of the Students:

Sentence A

Sentence B

Task 1: missing word

Task 2: +1 sentence (target:)

実践上の留意点

1 walking dictation について

- ・著作権の都合上、walking dictation で用いた英文は公開しておりません。
使用した英文は2018年8月19日（日）読売新聞 えいご工房の山手線の自動運行に関する記事です。
- ・walking dictation の後に、読み手を複数設定して、1文書き足させますが、指導助言者より「読み手が変わるのであれば、与えられている文も必要に応じて変えていいのではないか？」というアドバイスをいただいています。確かにその通りで、読み手に応じて元の文に変更を加えさせるのは面白いと思います。

2 メールライティングについて

- ・学びが最も深くなると考えられる場面は公開授業には組み込まれていません。その場面とは前時までに行った読み手毎にメールを作成する場面です。意見交換をしながらメールを作成しますので、学びは深くなると考えられますが、書くことに重点が置かれ研究授業として公開するには適していないと判断し、この部分は前時までにと終わらせました。研究授業の性質上、作成したメールの発表を見ていただいています。

